

作成日：令和3年8月16日

令和3年度 第1回 高松圏域自立支援協議会

医療的ケア部会議事録

日付	令和3年7月29日（木）
時間	9:30～10:30
開催会場	かがわ総合リハビリテーション福祉センター 2階 第1研修室
参加機関等	高松赤十字病院、高松訪問看護ステーション、さぬき市障害福祉課、東かがわ市福祉課、高松市障がい福祉課、高松市総合教育センター、高松市健康づくり推進課、三木町福祉介護課、三木町教育総務課、障害者生活支援センターたかまつ、支援センターgaryu、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点 順不同 計15名

議題1：昨年度の振り返りと今年度の予定の確認

議事	○昨年度までは医療的ケア児等コーディネーターの養成が大きな動きであった。 ○今年度は医療的ケア児等コーディネーターと母子保健コーディネーターの連携を密にしたい。そのために役割の再確認をおこない、地域で相談できるワンストップの仕組みを構築したい。 ○医療的ケア児等コーディネーターの状況 ・看護師、行政職員、相談支援専門員等、様々な職種が養成講座を受けてコーディネーターとなっている。 ・医療従事者以外も多い。 ・高松市内は養成研修を受けたうち半数程度はコーディネーターとして養成されており、30名程度のコーディネーターがいる。 ・今年度もコーディネーターのフォローアップ研修を企画している。 ・医療機関を退院し地域生活の相談、成長に合わせて必要な支援の輪を広げ切れ目無い支援をしていきたい。
----	--

	<p>○母子保健コーディネーター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高松市の場合は各支所に 1 名ずつ配置しており、統括を合わせて 8 名のコーディネーターが活動している。 ・主には出生後の退院時に情報提供いただき、地域での暮らしをサポートしていく。ケースによっては出生前から母に関わることもある。 ・連絡窓口の役割を担っており、地域の情報を収集し幼稚園や保育所と連携することもある。
--	--

議題 2：医療的ケア児等コーディネーター配置、役割について

議事	<p>○高松市の場合は高松市障がい者基幹相談支援センターに医療的ケア児等コーディネーター配置することで地域ごとにワンストップの相談窓口となり、退院時相談先に悩むという事が解消されないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高松市障がい者基幹相談支援センターの職員は医療職では無いため、医療的ケア部会等がバックアップできる支援体制が必要。 ・平等な立場で助言をくれる所があるのは良い事だと感じる。 ・医療機関内で医療的ケア児等コーディネーターの知名度が低い。住所地毎に相談先があることは相談先が明確になり連携が進むと感じる。 ・就学前の教育相談時、支援者がついていないケースもある。相談できる機関があることは心強い。 ・すでに登録している医療的ケア児等コーディネーターを地域ごとに割るのではなく、高松市障がい者基幹相談支援センター地域拠点 8 か所の職員が養成研修を受講し新たにコーディネーターとなってもらいたい。 ・現在、退院時カンファレンスに福祉職が呼ばれるることは少ない。地域ごとに担当が決まっていれば、カンファレンスに呼びやすいのではないか。 <p>○現在登録していただいている医療的ケア児等コーディネーターの役割について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活躍の場を作る必要がある。 ・母子保健コーディネーターや香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」との連携することが望ましい。 ・退院前カンファレンスへの参加や地域資源の開発も担うべき役割になる。 ・今年度もフォローアップ研修を予定している。
----	--

決定事項	高松市障がい者基幹相談支援センター地域拠点に各 1 名医療的ケア児等コーディネーターの配置をおこなうことを打診する。
今後の動き	部会長から高松市障がい者基幹相談支援センターへ打診し、返答を医療的ケア部会内で共有する。

議題 3：香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」について情報共有

議事	<ul style="list-style-type: none"> ○概要の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・別紙資料あり。 ・当事者・家族、支援者からの相談を受け付けている。 ・相談はメールでおこなうため返信に時間を要する。 ○活用について <ul style="list-style-type: none"> ・大川圏域では圏域内の体制整備コア会議や個別支援会議に参加している。助言を受けている。 ・高松圏域では「ソダテル」に相談のあった圏域内のケースについて個人情報に留意し、共有することとしている。
----	---

議題 5：教育現場での医療的ケアの現状について

議事	<ul style="list-style-type: none"> ○高松市 <ul style="list-style-type: none"> ・市立の幼稚園、保育所、小学校、中学校、高松第一高校が看護師の訪問対象となっており、導尿、インスリン注射、胃瘻の対応をしている。 ・インスリン注射は 12 時に 1 回、導尿は 3 回（学内で 2 回、放課後等デイサービス事業所で 1 回）対応している。 ・支援の活用は校長会と園長会で周知しており、保護者から希望があれば対応している。 ・現在 6 名が支援を受けており、15 名まで対応できる。 ○三木町 <ul style="list-style-type: none"> ・現在 1 つの小学校に看護師を配置しており、1 名が支援を受けている。 ・新たにインスリン注射の対応希望者がおり、対応の準備を進めている。 ○東かがわ市 <ul style="list-style-type: none"> ・1 名教育現場で医療的ケアを受けている。保健師との連携をおこなっている。 ○香川県立高松養護学校 <ul style="list-style-type: none"> ・現在 7 名の看護師が在籍しており、医療的ケア児等コーディネーター
----	--

	<p>養成研修も受講してくださった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援との連携はあるが、他機関の看護師との連携が少ない。そのため学校、放課後等デイサービス、施設などで細かな手技が異なることがある。 ・数年前から訪問看護のサマリーを学校へも提出できるようになったが、関りが少ないと提出しないことが多い。お互い顔を合わせる場面があれば連携が進んで行くと感じる。 ・ケースによってはサマリーの共有、現場を見に行くこともしている。 ・過去に生活介護事業所内の看護師に向けた研修をしたことがある。同様に研修を検討してはどうか。
決定事項	所属を越えた看護師間の連携が進むよう、顔の見える関係作りができる機会を作る
今後の動き	研修会という形で実施する方向で検討する

議題 6：情報提供	
議事	<p>○障害福祉サービス報酬改定に伴う注意点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア区分取得時の新判定スコアについて共有。 ・医療的ケア区分取得に必要な主治医意見書は自費作成となる。 ・サービス利用の自己負担額も変わってくるため、ご家族へより丁寧な説明が必要となる。そのためには支援者も最新の情報を把握しておかなくてはならない。

安心して暮らすという 当たり前の願いを叶えたい

医療を必要とする子どもたちが、香川県17市町どこの地域にもあたりまえに暮らしています。

地域という身近な単位で、連携を重視した総合的な支援の環境を早期に整え、専門的支援につなげることで、医療を必要として育つ子どもたちとその家族だけなく、誰もが望む、「安心して暮らす」という願いに応えていきます。

子どもは地域で育つ

すべての子どもの成長待ったなし!
どんな小さな声も置き去りにできません。

すべての子どもを大切に育てることが、持続可能な地域への大きな財産です。
地域力を最大限に發揮し、これから生まれてくる子どもたちへつなげていきます。

※医療的ケア児等総合支援事業として、香川県の委託を受けて活動しています。



ここには 選択肢があります

医療的ケアを必要とする方、そのご家族や支援者のみなさんが、前が見えなくなってきたときのための窓口がここにあります。

まずはご相談ください。
地域の手を借りることで霧が晴れていいくよう目の前が明るくなるかもしません。

ご相談窓口

香川県医療的ケア児等支援センター 「ソダテル」

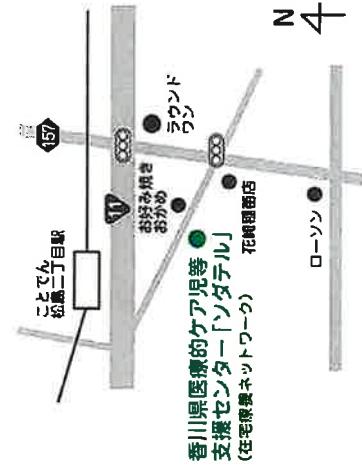
(一般社団法人 在宅療養ネットワーク内)

〒760-0068 高松市松島町2丁目12番8号
TEL 087-802-2237(代表)
携帯 070-1566-6455(直通)
<https://raiseup.or.jp/>



メールでのお問い合わせは
ご相談フォームからどうぞ

〈受付時間〉月～金 9:00～17:00
✉ メールは24時間いつでもお送りください。
こちらでの確認は受付時間内になりますが、
翌日にはお返事いたします。



香川県医療的ケア児等支援センター 「ソダテル」



医療的ケア児等やその家族が
地域に育まれ
共に生きる社会づくりに
貢献してまいります

どんなことを おこなうの？



1. 医療的ケア児等がいつでもどこでも相談できるシステムをつくる

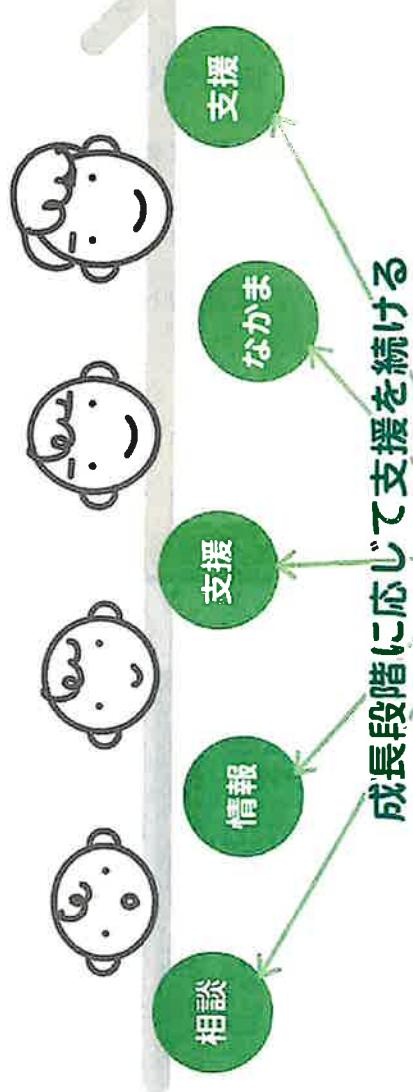
2. 医療的ケア児等とその家族が支援者を育てる

3. 医療的ケア児等とその家族が安心して暮らせる地域づくり

「ソダテル」には、話せる人がいます

医療的ケアを必要とする方とその家族や支援者の総合的な相談窓口となり、情報提供や助言など、成長のどのタイミングにおいてもきめこまかに対応します。

地域



フォロー・バックアップ

- 県内各地に出向き対話して集めた情報を発信
- 専門性の枠を越え、共に学んで新しいネットワークをつくる
- 本人、家族、支援者からの相談を地域につなげる
- 医療的ケア児等が、安心して地域の中で日々を過ごす
- この重要性をより多くの方に知つてもらう

香川県医療的ケア児等
支援センター

ソダテル

① それぞれの地域の中で → 人間関係
関係者が対話する機会 → (尊重し合える関係)

② それぞれの地域にあつた → 良いアイディアや
解決策をみんなで考える → 気付き

③ 解決策をみんなで実践する → 助け合うことで
新しい挑戦

④ 成果の実感 → 信頼関係が高まり
関係性の質を高める